

私は、自分の感性を磨くために4泊5日の海外研修に参加しました。アジア圏とはいえ初めて海外に行くので色々心配があったのですが、いざ現地につきいろんなところを周って行くとそんな心配など吹っ飛ぶくらい充実した5日間でした。

まず1日目は、移動で潰れましたが友人と隣通しだったのか、飛行機内の設備が充実していたのか約4時間30分のフライトがあっという間に感じました。機内では、友人とは反対側の方が外国の人だったのですが日本人スタッフではないキャビンアテンダントさんと意思疎通ができないときなど助けていただいて、色々親切にさせていただいたことが一日目の一番の思い出になりました。

また、一日目の夕食は中華料理の形式で一番イメージのある円卓形式のレストランでした。円卓は、中華料理で使われていますが、日本がルーツのようです。日本のとある中華料理店が大きな円卓に何皿も料理を出していたらしく、料理を取り分けるには、お客がいったん立たなければならなかったそうです。そしてそのお店の創業者、その光景を見て、「テーブルが回転すれば、お客が立つ必要はなくなる」と思いつき、そのアイデアが日本各地の中華料理店に広まり、やがては中国大陸にも広まっていったそうです。ですが円卓自体は、すでに18世紀のイギリスに存在していたらしいですが、中国にその便利さを広めたのはそのお店の方だそうです。

↓部屋の窓から見たホテルの内装



↓お世話になったバスの内装



そして2日目、世界四大博物館の1つ「故宮博物院」、実践大学、現代京劇「タイペイ・アイ」に行きました。

故宮博物院では、一瞬日本人だと錯覚してしまうほど日本語がお上手なガイドさんに案内して頂き、とてもわかりやすい説明で一人で行くよりも充実な博物院見学になりました。また、博物院内の外装・内装やお土産屋さんも充実しており、豚の角煮などの変な置物などのお土産を友人と見ているだけ心が踊りました。ただ、博物院に割り当てられた時間が思っていたより少なかったのが残念でした。ですので、また台湾に行く機会があるのなら故宮博物院をじっくり堪能しようと思います。

実践大学では、まず規模の大きさに驚きました。最初は、服飾のワークショップでその次が芸術メディアのワークショップでした。服飾では、過去の卒業作品やファッションショーを見せて頂きました。

故宮博物院も実践大学も素敵だったのですが、やはり二日目の一番印象に残ったのは夜に行った「タイペイ・アイ」です。上演前にホワイエで京劇化粧の仕方を間近で見ることができたり、華やかな役者さん達とポーズをとりながら写真と一緒に撮ったりと楽しい仕掛けが一杯でした。私は本番前には集中したいので静かなところで気を落ち着けたい人間なので、そんなキャストサービスしてまで台湾文化の良さを知ってもらおうとしているキャストの皆さんの熱意が感じられ、凄いなと思いました。会場内は、舞台の両脇にスクリーンがあり、そのスクリーンに台詞とその日本語訳が映し出されていました。また、舞台の左側に演奏者の方々がいる場所があり、本番中はそこで演奏されていました。私は最前列の一番左に座っていたので、私の座席から演奏者の方がよく見られなくて残念でした。

そして色々見ているうちにいよいよ開演。開演はブザーではなく、スタッフの方が舞台の前まで来て鐘を鳴らすシステムでした。スタッフの人が退場していよいよ始まり、演目は「無底洞」。日本でも有名な西遊記の劇でその中の金鼻玉鼠精が出てくるお話でした。見る前の京劇のイメージは日本の歌舞伎に近いものだと思っていましたが、実際見てみると楽器演奏・歌が中心で観た時はなんだかオペラに似ているなと感じました。後々、調べてみると京劇は英語圏の人からは「チャイニーズオペラ」と呼ばれているそうです。ですが、オペラには似付かない中国らしいアクロバティックなパフォーマンスもあったので「チャイニーズオペラ」と呼ばれているのも納得しました。



↑ 上演前のキャストサービス→



↑ アクロバティックなパフォーマンス



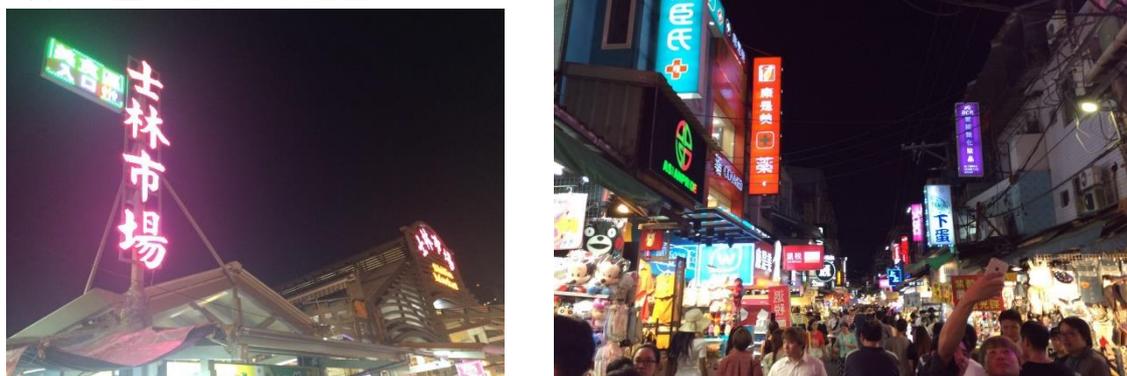
三日目に西園29服飾創作基地のワークショップ、台北服飾快速設計打様中心の工房見学、永楽市場と迪化街(旧市街)・龍山寺、士林夜市に行きました。そして、その中で印象に残ったのは、「鼎泰豊」の小籠包と夜市です。鼎泰豊の小籠包はお店の「味醂3：お醤油1に小籠包をつけて食べる」というお勧めの食べ方があり、とてもこだわりの強いお店でしたがその小籠包をお勧めの食べ方で食べるともうほかの小籠包が食べられなくなるくらい美味しかったです。予約していても30分くらい待たされるのもうなずけます。

夜市では人とお店が多く、また価格が安いことから日本の原宿を感じさせました。夜市では、出店に入ると押し売りの勢いが凄く気圧される場面が多く、台

湾の方の勢いの強さに圧倒されました。夜市で買い物をするとき自信の無い英語を利用したのですが、自分の拙い英語でも店員さんにきちんと言いたいことが理解してもらえたので自分の英語能力に少し自信が持てました。そして、夜市の行き帰りに地下鉄を利用したのですが、日本よりも飛び込み事故防止の対策がしっかりしていたので驚きました。また、地下鉄の切符も日本とは変わった形で切符というよりはチップに近い形で面白かったです。



↑ 鼎泰豊の看板と小籠包



↑ 夜市の光景

台湾の地下鉄切符→



また、迪化街(旧市街)の散策で車よりも圧倒的にスクーターの方が多く道路を走っていることに気が付きました。理由は、車は都市部では駐車場も少ないがスクーターは街中でも駐車する場所があること、また一般家庭では共働きでも車を買うのは経済的に厳しいからということだそうです。スクーターが車よりも多い分、現地行政の二輪車走行対策、駐車対策は活発に行われています。そして、より深く調べてみると台湾は世界で最も二輪車の普及している国で、125ccクラスのスクーターを中心に、人口の1.8人に1台という驚異的な普及率だそうです。スクーターは、生活に欠かせない手軽で便利なパーソナルコンピューターとして社会に認知されており、若者のほとんどが二輪免許を取得し、保有台数は年々増加しているそうです。

4日目は台北101、青山文創園區、台湾の伝統マッサージ「六星集足體養身會館」に行きました。

昼食は、「添幸運」の広東飲茶で取りました。その時に緑茶を頼んだのですが、出てきたのは紙パックの緑茶で飲んでみたらとても甘く、お砂糖が入っていたので驚きました。外国で無糖茶を探すのは結構難しいことだそうです。また、台湾のフードコートでは日本とは違い自分が使った食器を片付けないことにも衝撃を受けました。

台北101では、ギネスに登録されたエレベーターに乗り、お目当ての金魚のお茶パックを買いました。ギネスに認定された101のエレベーターは、天井が星空を模されており、度々流れ星が流れたりしていて綺麗でした。そして、とても早かったです。

台湾の伝統マッサージは結構痛いと言っていたので覚悟はしていたのですが、実際受けてみるとあまり痛くはなくくすぐったかったです。痛い悲鳴ではなく、くすぐったくて笑い声をあげてしまいました。マッサージが終わった後は、体が軽くなったのですがその後数日は肩などが痛くなったのであまりお勧めしません。

そして、六星集足體養身會館に向かうときに台湾ではコンビニが多いなど改めて思いました。特に「セブンイレブン」と「ファミリーマート」が多く、台湾にいるのに日本にいるのかなと思ってしまうくらいでした。台湾のセブンイレブンとファミリーマートの具体的な店の数は、セブンイレブンが4,705店、ファミリーマートが2,228店。台湾のコンビニはこの二店舗がほとんど占めているそうです。また、台湾は強盗率等コンビニに不利になる犯罪比率が日本より低く、コンビニの有無・距離がマンション価格を左右するため、マンションデベロッパーなどが一階に積極的に誘致したためコンビニが多いそうです。

↓エレベーターの天井



↑金魚のお茶パック

最終日になると台湾から日本に帰るのが少し億劫になりました。まだまだ台湾の素敵な所を巡れていないこと、目標の一つであった台湾で人脈をつくる事が達成されていないのでまた機会があれば、個人的にでも台湾に行きたいと思います。

この海外研修では、日本と違うことが結構多く、驚くこともたくさんあり、それらを知るたびに自分の視野や考え方が広がったと思います。そして自分の拙い英語でも現地の人とコミュニケーションが取れたことにより、自分の英語能力に少し自信が持てました。4泊5日という海外に行くには、短い日にちでしたが一日一日がとても濃く、いい経験になったと思います。

参考にしたもの

「GET BIKE」 <http://www.getbike.co.jp/>